

#アンプdeGO!!

with

Marshall

第4回

season2

松隈ケンタ [SCRAMBLES]

“アンプでギターを鳴らす大切さ”を伝えるべく始動した『#アンプ de GO!!』。シーズン2の第4回目はBiSHの全楽曲を手掛けるSCRAMBLESのサウンド・プロデューサー：松隈ケンタ氏に登場してもらい、P.48から展開しているBiSHの最新曲「TOMORROW」のサウンドをマーシャルの小型アンプMG10で特別に再現してもらったのだ！ GiGSのTwitterアカウントにアップされた動画と共にマーシャル・アンプの魅力、そしてBiSHサウンドの秘密に迫っていきよう！

Text / AKIRA SHIGEMATSU [GiGS] Photo / REISHI EGUMA [C-LOVE CREATORS]
製品のお問い合わせ先 / ヤマハミュージックジャパン [http://www.marshallamps.jp]

アンプで鳴らした音を知らない ギターの鳴らし方だって変わってくる

「普段の制作現場ではDAW内の音色を活かしながら楽曲のフレーズを創り上げて、ギターのサウンドはリアンプして構築しているので、アンプ実機を実際に鳴らしたのは久々。…だけど、やっぱりアガりますね、アンプの音は！

僕が昔使っていたような練習アンプとは全然違って、音がホントにイイのがまず良いと

ころ。昔は音がシャリ付く感じだったけど、MG10はロー・ミッドの豊かなニュアンスも出してきて、弾いているだけでも気持ちが良いですよ。今だってあまり大きな音を部屋で出せないだろうけど、そういう環境に対応したヘッドフォン端子なんて昔はなかったし(笑)。

ただ、DAW環境に慣れた今も、実際にアンプを鳴らすことは大事だと感じてますよ。アンプ実機の音を知っているか知らないかでは、全然違うんです。だからこそ、PC内やデジタルで音

が作れる現在においても、アンプに繋いで鳴らすべきだと僕は思います。

シミュレーターはあくまでシミュレーターなんで、アンプで鳴らした音を知らないでギターの鳴らし方だって変わってくると思うんです。作曲やレコーディングにおいても変わるけど、一番ライブでの鳴らし方が違ってくる。アンプで鳴らしたときの音の速度の違いや迫力、説得力の違いは、アンプを鳴らさないと知ることができない。そこが重要だと僕は思います」(松隈)



▲前述した通り、今回は松隈氏にBiSHの最新曲「TOMORROW」を弾く際にお薦めのサウンドを作ってもらった。「コントロールがシンプルだけど、僕はEQをセッティングするときのこだわりは単純に“左”か“右”か“上”を試して考えることなんです。今回も、太く出したいならコンツアーを左、鋭く出したいなら右、程良く出したいなら上、って感じの中から太く出せる左を選びました。原曲ではガッツリ歪ませてリードを弾いてますから、ゲインをほぼフルに近い状態にしていますね」(松隈)



松隈氏のサインが入ったMarshall MG10を1名様にプレゼント!

応募方法

- ①GiGSのTwitter 【@GiGS_Official】をフォロー。
- ②YamahaのK-ONB(けいおん部) 【@yamaha_k_onb】かMarshall Japan 【@Marshall_Japan】のいずれかをフォロー。
- ③本特集と連動したアーティスト試奏動画ツイートをRTするだけ!

※締切は8月27日24時まで! 当選者はDMにてご連絡いたします。ドシドシ応募ください!!

